

複数月平均 80 時
間を超える教職員
0 人を目指して

働き方改革 通信

For everyone's Smile

第 14 号
令和 4 年 5 月
山形県教育庁

☆働き方改革進捗状況チェック☆

働き方改革通信第 10 号で、ご自身の学校の月平均時間外在校等時間について、同じ校種と比較してもらいました。今回は、ご自身の学校で実践できている取組みについてチェックしてみましょう。チェック がつかなかった項目について、どんな課題を解決すると取り組むことができそうか、ぜひ話し合ってみてください。

勤務時間に関する意識啓発と管理の徹底	教員の事務負担の軽減		地域人材の活用
私の学校は、客観的時間管理システム等を用いて、勤務時間を管理している。 <input type="checkbox"/>	私の学校の管理職は、特定の教員に業務負担が偏らないよう、外部人材の積極的活用や適切な校務分掌の配置、学年・分掌等の業務の分担や平準化を行っている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、校内における授業研究会等での実践事例等の情報を共有するとともに、有効な教材等の蓄積と活用しやすい環境づくりを行っている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、教員の業務負担を軽減するため、地域ボランティアを効果的に活用している。 <input type="checkbox"/>
私の学校の管理職は、長時間勤務者に対して業務負担軽減等の対応を行っている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、作品募集やコンクールへの出場、児童生徒及び教員の参加依頼等について、教育課程と関連した取組みとなるよう精選している。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、若手教員に対する指導（OJT）を計画的かつ組織的にを行い、効果的な支援となるよう努め、若手教員の負担を軽減している。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、「学校だより」等を活用して教員の働き方改革についての趣旨や PTA・地域との連携による好事例を発信し、PTA や地域への理解と協力を依頼している。 <input type="checkbox"/>
私の学校は、完全退校日や、完全退校時刻を設定している。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、保護者の協力や地域の社会教育諸団体等との連携による対応などにより、教員の業務負担を軽減している。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、特別な支援を要する児童生徒等への対応について校内で情報を共有し、組織的に対応している。 <input type="checkbox"/>	適切な部活動の推進
私の学校の管理職は、教職員の健康を守るという観点から長時間勤務者を把握し、医師の面接を行うよう該当職員に勧奨をしている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、毎年実施される定型的な調査に対して、校内での回答方法の整理や校内 LAN 上のフォルダ整理を行い、担当者の負担を軽減している。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、校内における文書事務等の簡素化を図っている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、学校設置者の方針を遵守した適切な部活動運営を行っている。 <input type="checkbox"/>
私の学校は、すべての教員が働き方改革の視点に立った学校行事や業務等の削減及び統廃合等に向けた意見を発信、実践している。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、校内研修の実施時期、回数等の見直しを図っている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、校内研修の実施時期、回数等の見直しを図っている。 <input type="checkbox"/>	私の学校は、部活動設置数を見直し、複数顧問の配置や部活動運営に係る体制について検討する場を持ち、教員の業務負担を軽減している。 <input type="checkbox"/>
私の学校は、学校評価において、働き方改革の視点に立った目標を設定し、評価を行っている。 <input type="checkbox"/>	山形県公立学校における働き方改革プラン（第 1 期）〈学校における取組み項目〉		

裏面に続きます

☆文部科学省の事例より 日課表の見直し☆

NEW

特進クラスの「早朝補習」を発展的に廃止

INTERVIEW

教員の大きな負担となっていた「週5日の早朝補習」を新しいカリキュラム編成によって廃止したという滋賀県立堅田高等学校にお話を伺いました。

早朝補習とはどのようなものですか？

A. 全学年5クラス中2クラスの特進クラスの生徒に対して、毎朝7:45~8:30を0時間目として補習授業を行っていました。

どのように早朝補習をなくすのですか？

A. 令和4年度からは、早朝補習を廃止し、全クラス週31時間(6時間×4日、7時間×1日)とします。特進クラスの授業時間数は週4時間減りますが、新しいカリキュラムへの移行で学習の質を向上させることで、早朝補習が発展的な廃止になるよう考えました。

新しいカリキュラムにはどのような特徴がありますか？

A. 生徒の多様な進路希望に対応できるよう、選択科目の配置を工夫しました。一人一台端末の導入を契機として、より一層ICT活用を進め、一人一人に最適な学習環境を整えていきます。また、教員の負担が軽減されたことにより、授業改善やICT活用への取組が促進され、教員の指導力の向上につながると期待しています。

早朝補習の廃止について、生徒からはどのような声がありますか？

A. 自分に必要な学習に時間を割けるようになったり、勉強と部活動の両立を目指したりと、「時間に余裕ができる」という声が多いです。また、通学時間を理由に、特進クラスの志望を迷っていた生徒も安心していきます。

先生方の負担軽減につながりましたか？

A. 生徒のためを思って長年行ってきた早朝補習でしたが、教員にはそれ自体がかなりの負担でした。担当していた教員の授業の持ち方や負担の偏りが、是正されると考えています。

○事例報告

《酒田市立東部中学校》

- 令和2年度より朝読書をなくしており、令和3年度は、平日の部活動を3日間とした。職員の朝の打合せはないが、連絡事項は「サイボウズ」に掲示し、毎日見てもらうようにしている。月曜日は5校時とし、部活もなく、日直も置いていない。
- 事務職員が、教員の事務作業軽減のために注力してくれている。特に学年会計事務、出張承認申請書、生徒名簿管理が教職員にとってありがたい。
- 部活動指導員にスキー部の引率業務にあたってもらっており、大幅な業務削減となっている。
- 教科センター方式で、生徒が教室を移動するので、教員の移動時間が削減され、授業準備が手際よくできている。

山形新聞 令和4年4月18日

アラカルト

■岐阜・下呂の中学校、教員負担軽減へ午後4時半下校に
岐阜県下呂市は教員の長時間勤務を減らすため、2022年度から市内の中学校全6校で下校時間を原則、勤務時間の定時の午後4時半にした。現在は平日の3

日間、放課後の午後6時までとしている部活動の終了時間も早くなるが、火曜と金曜の6限授業を5限に短縮し、その後の時間を充てることで確保する。

市の校長会が21年度から下校時間の前倒しを議論していた。午後3時5分で終わる6限を、午後2時5分までの5限にすることで減る授業数は、年間行事の見直しで埋め合わせる。市教

育委員会も、スクールバスの運行時間を新しい下校時間に合わせる。

下呂中の益田貴史教頭は「教員の働き方を変え、生徒にも放課後の時間を計画的に使えるようになってほしい」と話す。生徒からは「(下校後の)時間を好きなことに使えるようになり、ゆとりを持てる」といった声があるという。